

問 県産木材供給センター等
企業誘致について

答 山にお金を返せる仕組みを作りたい

小林 健志 議員

問 県産木材供給センターが安積山に計画されているが、市内の木材関係者、製材所への影響は。流通加工センター・木材市場との関連、市の造成費、概算13億円を見込むと聞か。また、その他の企業誘致について伺う。

1割の補助があり、建物・設備費の4割を事業所が負担する。開業当初は赤字であるとの試算だが、供給センターの目的は宍粟材の銘柄化と宍粟の山が活性化するかどうかの拠点をつくるということから、宍粟の山にお金を返すシステムを検証し、運営上必要だと判断されるものは議会・委員会でも協議しながら対応策を考えていく。その他の企業誘致については、用地は確保していないが最大限努力をしたい。

市長

供給センターが本格稼動すると年間約10万³mの原木仕入れが必要。よって搬出量は増大し素材生産の現場等では雇用の増大が見込まれる。流通加工センター・木材市場とは協力体制をとっていけるよう努力を重ねる。

造成設計等委託料として、6,800万円が必要である。造成費は企業に負担を求めない。企業誘致という考え方。建物・設備費約17億円を見込み、国1/2県、



県産木材供給センター予定地の安積山（一宮町安積）

問 千種東小使用禁止と統合問題は

答 別の問題として考えている

高山 政信 議員

問 南小への移転は1校舎に2校という不自然な形であり、移転は一時的なものであるのか。新校舎建設の考えはあるのか。

市長 一時的なものと考えている。基本的には、東小に帰っていただく施設を考えていきたい。しかし5年後には8人という児童数になることから国庫補助金等の精査をしながらPTA、自治会等々、関係者の皆様と協議してまいりたい。

問 一時的な対応に仮校舎建設の考えは。

市長 現段階では考えていない。特に冬期通学安全対策は。

問 教育部長 細心の注意を払う。

問 学校は災害時の避難場、コミュニティの場であり、心の拠り所となっている。統合は地域事情も考慮し慎重に。

市長 子供達の教育にとつて『何が良案か』を視点に行っており、『統廃合ありき』『学校運営コストの削減ありき』での検討は行っておりません。関係者の意見を聞き総合的に判断をしていきたい。

問 少子化、人口流出問題は雇用対策にある。進出企業、新規企業等に対して財政的支援をし企業誘致等をはかり雇用機会の拡大を。

市長 地域産業の振興と雇用機会の拡大の観点からも出来る限りの支援を行っていききたい。

問 高齢者の虐待問題が宍粟市でもある。市の対応は。

福祉部長 虐待防止ネットワーク作りに取り組んでいる。



千種南小学校西側にある千種東小学校玄関